

第43号

平成24年
5月1日

題字

植木 満
初代東進会会長

**発行所**

土浦一高東進会

〔茨城県立土浦一高
進修同窓会東京支部〕

発行人

東進会会長 大野 金一



立春の筑波山（つくば道 神郡から望む）

◆ 平成24年度総会・懇親会ご案内 ◆

と き 6月10日(日) 12時00分

ところ 神田錦町 学士会館

詳細は8ページをご覧ください。

■ 紫峰筑波山と
科学の町つくば散策
廣瀬 巳良 (昭和40年卒)

■ 半了のささやき (第13回)
◇ デジャヴュ ◇
高山寺 半了 (昭和41年卒)

■ 私の仕事人生
武藤 明 (昭和31年卒)

■ 平成24年度大学進学状況
大野 金一 (東進会会長)

紫峰筑波山と

科学の町つくば散策

廣瀬 巳良 (昭和40年卒)

食べ歩き飲み歩きグループ「謳粋会」は毎月第2木曜日に例会を、そして年1回一泊旅行を開催しています。例会は4月に164回を数えました。今回は平成24年2月に第162回として開催された「謳粋会一泊旅行」のご報告をします。

◆旅行計画

一泊旅行の計画は平成23年8月の幹事会に始まりました。前回は大洗温泉宿泊で、偕楽園の観梅・あんこう鍋でした。候補としては、笠間の菊・陶芸・酒蔵見学、筑波山からの夜景、阿字ヶ浦温泉と鮮魚食べ歩きなどが挙がりました。検討の結果、筑波山一泊を前提とすることとなり、私がつくば市北条出身なので案企画担当となりました。いつも見慣れている山、何度か登った山「筑波山」で心に残る旅を考えてみました。

開催日は、平成24年2月4日(土)～5日(日)の1泊2日とし参加者20名を想定しました。スケジュール概要は、集合は10時30分に旧筑波支所とし、北条の文化財見学、昼食後つくば道を北条から筑波山神社まで約4kmの徒歩散策としました。午後2時から郷土史研究家井坂氏による筑波

山神社の神々の案内・解説をお願いしました。

宿は筑波山ホテル青木屋となりました。2日目は笠間探訪の案もありましたが、古い文化と新しい文化を比較できることから科学の町つくばとなりました。2日目の計画は高山氏に担当していただきました。午前中に地質標本館を見学し、昼食後筑波宇宙センター(JAXA)を見学することとなりました。

12月に募集を開始し、当初19名の参加者がありました但最终的には17名となりました。

では、2月4日(土)の散策にご案内します。

◆集合時間

朝9時過ぎ携帯電話が鳴ります。予定されたつくばエクスプレスに秋葉原で乗り遅れたとの連絡です。快速電車の運転は30分間隔ですので、集合場所への到着も30分遅れが想定されます。私は集合時間30分前に集合場所に行きました。すでに一本早い電車で来たYさんが到着しています。快晴の空を仰ぎ日頃の行いの良い事を二人で確認し合いました。昨日より寒さはやや緩んだ感じですが、最高気温が7～8度とかなり低く寒い日です。予定通り秋葉原9時発の快速に乗った参加者は、つくば駅10時発の北部シャトルバスに乗車するはずですが、参加者の一人に確認電話をいれると、7名はつくば駅に迎えにきていた。Kさんの車で集合場所に向いているという報告です。車で参加の人も順次到着してきました。10時20分頃、集合場所をつく

ば駅と思っていたNさんから待っていて誰も来ないと電話が入ります。10時30分の集合時間には2名を残して参加者が揃いました。2名には後から追いかけていただくこととし、参加者にスケジュール表と筑波山MAPを配付し散策が始まりました。

◆北条探訪

北条は筑波山の南、標高129mの城山の麓に広がる町です。江戸時代より筑波山への参詣道「つくば道」の出発点として、また一大商業地として発展しました。明治43年には宿屋6軒、料理店7軒、飲食店22軒という繁盛ぶりであったそうですが、現在の

飲食関係は、ラーメン屋2件、喫茶店1件という状態です。数は減りましたが、江戸末期から明治にかけて建てられた土蔵造りの「店蔵」がその面影を残しています。集合場所から、10分程度で町の中心部になります。この日は北条商店会と北条街づくり振興会主催の「冬の北条市」が開催されていました。商店街の出店や、20軒以上の屋台がならび周辺の工芸品・特産物の展示、販売が行われています。特筆すべき屋台はチョウザメをつくば市の名物にしようと養殖に取り組んでいるつくばチョウザメ産業のチョウザメ燻製と薬膳粽です。キャビアを生産することを目標にしています。が、まだまだ時間がかかるそうです。屋台を覗きながらの散策となり、歩く速度が極端に遅くなりました。

◆宮本家店蔵「宮清」

最初の訪問となる「宮清」店蔵に到着し

たら11時になっています。遅れた二人から電話が入り、バスを降り北条市を見ながら店蔵に向っているそうです。「宮清」は昭和30年代まで醤油の醸造・販売を行っていました。店蔵は江戸末期一八四七年の建築で本格的な土蔵造りです。奥様に江戸時代の銭箱や枡、一九二〇年米国製のレジスターなどの展示品の説明をしていただきました。レジスターは現在でも現役と同じように動き、価格は蔵一軒分の建築費と同じだそうです。今回は時間の関係上、見学しませんでした。今回は時間関係上、見学しませんが、屋敷内にある穀物蔵では年に数回「宮清大蔵コンサート」と称して音楽会が開催されています。

◆矢中の杜「旧矢中邸」

11時に予約をしていた「矢中の杜」に15分ほど遅れる」と、守り人井上さんに連絡します。ここで、追いかけてきた2名と合流が来ました。「矢中の杜」は昭和13年から28年にかけて建材研究者・事業家の矢中龍次郎氏により建設された豪邸です。見学には邸宅維持修繕協力金五百円を支払います。七七〇坪の敷地に和風建築に近代的な手法が反映された居住棟と皇族が休憩できる迎賓空間を目指した迎賓棟とを解説を聞きながら40分近く見学しました。迎賓館には蔵一棟分の価格と言われる桜の一枚板の棚や、杉の一枚板の襖戸など豪華です。

◆自由昼食

見学後、つくば道の道標に12時20分集合として昼食をとります。北条市にはたこやき、うどん・そば、焼きたてパン、炭火

焼、飲み物などの屋台が出ています。私は実家の裏にあるラーメン、ワントンとその組み合わせしかないラーメン屋「栄楽」に案内しました。9名が参加しました。味はしょうゆのさっぱりした昔味です。小さなお店なので注文品が出てくるのに時間がかかり、9名が食べ終えたら12時20分になつています。集合場所の道標までは5分ほど離れているので遅刻となりました。

◆つくば道「道標」

筑波山は江戸城からみると北東の方角にあり、鬼門にあたります。徳川家康は「鬼門の護り」として筑波山をあがめ、中禅寺(現在の筑波山神社)を祈願所に定めます。三代將軍徳川家光は、一六二六年堂社を一新する工事にとりかかり、この時改修する建材を運ぶために拡充したのが「つくば道」です。改修後は中禅寺への参詣道となりました。

道標は一七一五年に建立されます。現在の高さが3mを超える道標は、江戸方面からの参詣客が次第に増加するようになって、一七九八年に再建されたものです。予定より25分遅れで、我々はこの道を歩き始めます。

◆普門寺

つくば道は緩い上り坂から始まります。5分もしたら参加者13名の列の長さが20〜30mになっています。坂を上りきると家が途切れ、緩い下り坂となります。田井郵便局を過ぎると、間もなく「普門寺」に着きます。道標を出発してから20分の距離です。

真言宗豊山派の寺院「普門寺」へは、堂々とした黒門、赤門のふたつの山門をくぐって行きます。残念ながら、本堂は2〜3年前に不審火で焼け、再建中です。境内にはトイレや休憩の為のお茶の用意もあります。池などを見学し参道をつくば道に戻るとAさんが石の上に寝転んでいて疲れている様子です。トイレを使っている人を待っている間に、Aさんがゆっくり先を行くという歩き出しました。

◆神郡(かんごおり)

ここから古い町並みが残る神郡(かんごおり)に入ります。緩い下り坂を降りると道は右に曲がりすぐ左に曲がります。店蔵や立派な門構えの家々が両側に続きます。その先には一段と大きくなった筑波山が顔をのぞかせます。歴史的な町並みと筑波山が絵になり、人気のビュースポットです。皆で記念写真を取り合います。前を見るとAさんが100m先を歩いていきます。



◆臼井(うすい)

点滅信号を越え、逆川を過ぎると集落が途切れます。筑波山がさらに大きく迫り、田んぼ道を抜けると山裾にはいります。こは臼井の集落です。両側の家々の表札を見ると次々と「鮭川」さんです。表札を覗きながら上り坂を少し登るとT字路に着きます。左に行くと車での登山口沼田方面です。我々はまっすぐつくば道を進みます。いよいよ舗装された急坂が始まり、道は右左と曲線を描いています。今までは寒さのためコートのボタンをしつかりと閉めていましたが体温が上がってきたのを感じます。50回は噛んでくださいと言う、うどんのように太い蕎麦で人気のある蕎麦処「ぬだ」を過ぎると、六丁目の鳥居はもうすぐです。

◆六丁目鳥居

午後1時20分頃石の鳥居に到着しました。鳥居の脇には芭蕉の弟子の句碑やベンチがあり、小休止を10分程度とりました。ここからは、昭和40年代に舗装される前まで石段の道が続いていた場所です。振り返ると臼井、神郡の集落が眼下になり山に登ってきたことを実感します。ここからは急登であることを皆さんに伝えます。体力が心配の方のために車の手配しておいたので皆さんの調子を伺うと、全員が徒歩で登ると元氣です。ただAさんの姿は見当たりません。

◆参道

ガイドブックによると神社前までは40分とあります。黙々と歩き出します。しば

らくすると三叉路になり、右行止りの標識があります。我々は右の行止りの方向へ進みます。間もなく舗装道路になる前の石段が見え、旧筑波郵便局の木造の洋館があり、旅館の面影を残すユースホテル筑波山荘が出てきます。参道に並んだ旅館・茶屋の面影がある町並です。程なく車道に出て、歩道橋を渡り階段を20段程度上ると突然神社の参道が現れます。

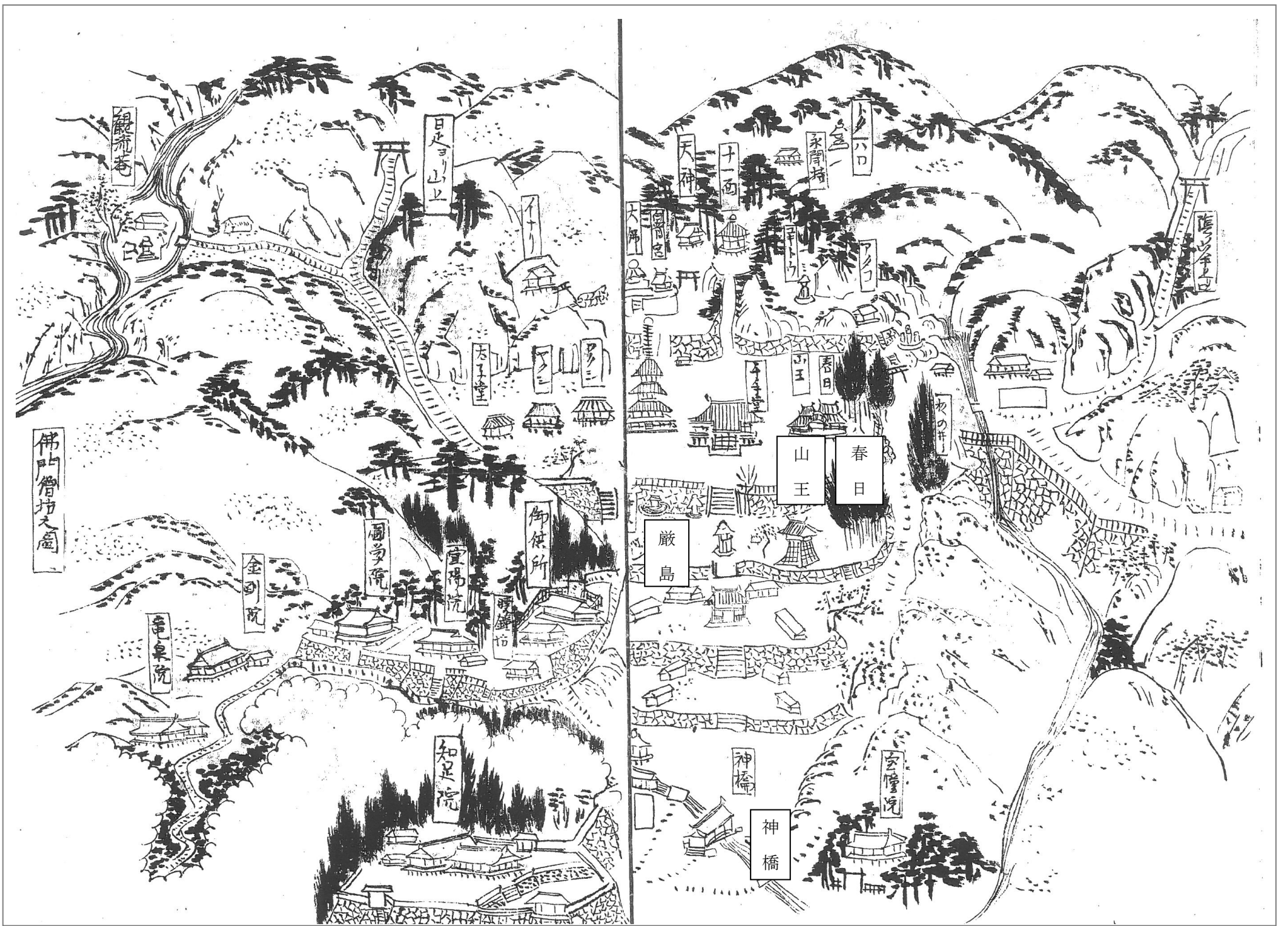
◆つくば道終点

左に曲がるとすぐ宿泊のホテル青木屋です。時計は1時55分を指していました。参加者のほとんどは高齢者の年齢ですが、寡黙に歩き出すと底力があり、なんとガイドブック40分の道のりを25分で登り切りました。ここでつくば道散策は終点です。

2時から筑波山神社を案内していただく予定の郷土史研究家井坂氏が、青木屋のロビーに到着しています。しかしAさんはいません。数人で周辺を探し、程なく赤の大鳥居を登っていたAさんをホテルに案内できました。私は普門寺を出たとき筑波山を望み、つくば道の終点は中腹に見える赤の鳥居と説明をしていました。Aさんはそこを指していたのです。鳥居はホテル青木屋と50〜60m位離れた場所にあります。申し訳ない。

◆筑波山神社

2時過ぎ、井坂氏による知足院中尊寺(筑波山神社)の見学の始まりです。配付された中尊寺の古図を手に、宿の前の石段を登ります。登ったところは院号になっている知足院跡です。古図には多くの建物が



描かれています。これらの多くの建物の資材がつくば道を運ばれてきたのです。

明治維新の廃仏毀釈で仏教色が払拭され筑波山神社となりました。井坂氏により現存建物や基礎などから往時を偲ぶ案内が始まりました。見学した中から現存するいくつかをご紹介させていただきます。

□拝殿
筑波山神社は山そのものをご神体としている。廃仏毀釈後の一八七五年(明治8年)創建

□随神門
中禅寺時代は仁王門。一八一二年建立。元は仁王像、現在は古代武人像がある。

□神橋
一六三三年造立。切妻造りの太鼓橋。春秋の御座替祭と年越祭に通行できる。

□巖島神社
一六三三年造立。春日造り。墓股に弁財天の神使の蛇が彫られている。水に浮かんだ島の上に鎮座している。

□日枝神社
一六三三年造立。墓股に「見ザル」「言わザル」「聞かザル」の彫物。日光より古い。

□春日神社
一六三三年造立。墓股に神の使いである鹿が彫られている。

境内には廃仏毀釈で払拭されたはずのお寺の面影を残す遺構が数多く残っていました。詳しい内容は、井坂敦實氏の共著「郷土の先達とゆく筑波山」などをご参照いただきたい。案内された中で新たな発見は、筑波山神社とは直接関係ありませんが、一九〇二年に山階宮によって日本ではじめての山岳気象所が筑波山山頂に建設されたそうです。その観測機器の一部がケールカー山麓駅脇に静かに立っています。二時間近く案内頂いたら筑波山神社の神々が色濃く我々の脳裏を染めていました。

井坂さんに別れを告げ、宿のチェックインとなりました。夕焼けを背景とした富士山のシルエット、赤く染まる眼下の景色を眺めながら温泉に浸ります。空が暗くなると、研究学園都市をはじめ町々の明かりが宝石をちりばめたような夜景を演出しはじめました。食べ歩き飲み歩きグループ「謳絆会」の宴会は6時開演です。宴会場ではつくば近辺の銘酒が時間の来るのを待っています。

私の仕事人生

武藤(植木) 明

(昭和31年卒)

平成十八年(2006)十月二十九日、妻が七十一歳で亡くなった。それから一年半後、私が前立腺ガンになり入院手術した。更にボケてしまい、ほとんど記憶を失くしてしまった。その後は毎日テレビの前で長椅子に寝そべっている日々だった。そんな時山田晴康さんが自宅を訪ねてくれた。そこで土浦一高と二高の同級生の集い「悠々会」の秋季旅行会に誘われた。そして、その後又「謳粋会」にも出席するようになった。

ある日「謳粋会」の席で、大野会長から「お前のやってきた仕事のことを書いてみないか」と云われた。でも私はまだボケから完全に回復していなかったのでお断りした。それでも何となくそのことが頭にあり、この度新しい年を迎え気持ちも新たに書いてみようかと思っただけであ
る………

昭和三十五年二月四日(二十二歳の誕生日)、私は砦の東宝の撮影所のダビングピルの二階から撮影所のスタジオを眺めていた。そこでテレビアンテナを見た。その瞬間、これからはテレビの時代だと思った。そして私はその足で録音部に行き、そして総務部を廻って、私は実家の酒屋に戻りま

すと云って東宝を辞めた。そしてテレビ局を目指した。

私の話には耳を傾け面接してくれたのがテレビ朝日(当時のNET)の編成局長、松岡謙一郎さんだった(あの松岡洋右氏の御長男である)。中途採用者達の入社試験は作文だった。幼馴染の彼女の事を書いたのだが出来の方はどうだったのだろうか。八人中で三人が入社を認められ、私はどうかその中の一人に滑り込むことが出来た。でも高卒の私には二年間の試用期間があった。フィルムの編集やオン・エアのキュー出しの仕事を二年間した後、昭和三十七年の四月、晴れて正社員となった。そして映画部に配属された。

最初の担当番組は、劇場用洋画の公開前の新作を紹介する番組「洋画サロン」だった。演出家はあのララミー牧場の春日正伸さんだった。その仕事で映画評論家の先生達とお付き合いをするようになった。淀川長治さん、小森和子さん、双葉十三郎さん達である。当時、淀川長治さんは「映画の友」の編集長だった。淀川さんには、とても可愛がられた。

テレビ朝日は松岡編成局長の力で「ローハイド」「ララミー牧場」「アンタタッチャブル」等アメリカのシリーズものを放映していた。そんな中、松岡局長はシリーズもの以外に劇場版洋画の放送を考えていた。松岡局長は放送に当たり、字幕スーパーカーか吹替えかで、かなり悩まれていたそうだ。考
えに考えた末、シリーズものが吹替え版で視聴者に受け入れられたことで、字幕スーパーカーではなく吹替え版に決めたそうだ。そして、作品の前後に解説を付けることも

松岡局長の案だった。さらに解説者を淀川長治さんと決めたのも松岡局長であった。でもその裏側には局長を支える人たちがいたのである。

放送評論家の米田喜一さん、当時の映画部長の酒井平さん、日本語版演出家の春日正伸さん達だ。そして私達は俳優さん達の吹替えの声優さんをフィックス化することにした。オードリー・ヘプバーンに池田昌子、エヴァ・ガードナーに翠準子、マリリン・モンローに向井真理子、エリザベス・テーラーに武藤礼子、ジョン・ウエインに小林昭二、ゲアリー・クーパーに黒沢良、ジャック・レモンに愛川欽也、グレゴリー・ペックに城達也、ハンフリー・ボガードに久米明、等大物俳優さん達の声優さんのフィックス化を決めた。そして吹替え版を製作するプロダクションも「東北新社」「グロービジョン」等数社に決めた。また演出家や翻訳者や音声ミキサー達も数名をフィックス化した。

解説の淀川長治さんの収録は局内のスタジオではなく、当時新橋駅の近くにあった日本語版製作会社のプロダクション「東北新社」の二階の物置場を改装した所だった。解説の収録には、私がすべて立ち会った。防音装置もなく、外の車のクラクションの音でよくNGを出した。それでも淀川さんは快く収録に応じてくれた。

そして、劇場版洋画番組がスタートした。昭和四十一年(1966)十月一日夜九時「土曜洋画劇場」だ。第一回作品は「裸足の伯爵夫人」だった。四作目の「小鹿物語」が私の最初に担当した作品である。番組は四人のプロデューサーが順番に作品を担

当した。そして半年後の昭和四十二年(1967)四月九日より日曜に移動し「日曜洋画劇場」となった。「日曜洋画劇場」となったの最初の作品は「誇りと情熱」だった。その後、後輩達が頑張ってくれて今年で四十六年目を迎えることが出来た。私以外にもミニ・シリーズ「ルーツ」も担当した。

四十四歳の時(昭和五十七年)映画部のトップ映画部長となった。そして私は五十歳の時(昭和六十三年)早期退職の優遇制度を活用して映画部長の職を辞した。今でもテレビ朝日の社歴の中で高卒で部長になったのは私一人であろう。テレビ朝日を退職当時、これからはビデオソフトの時代になるだろうと思った。その後、私は友人が立ち上げたプロダクション「テレビハウス」に行き、一年後、五十二歳(平成二年)の時、そこを辞めて、劇場版外国映画のビデオソフト用の吹替え版を作るプロダクションを自ら立ち上げた。そして、20世紀FOXの作品を請け負った。「タイタニック」や「ダイハード」「スピード」等を作った。

仕事は順調にやってこられたが、平成十五年八月十五日妻が脑梗塞で倒れ、私の生活は病院に泊り込む看病の毎日となった。そして仕事を辞めることにした。私が六十五歳の時だった。妻は発病から三年後、心不全を起こして亡くなった。平成十八年十月二十九日、七十一歳で人生を終えた。今は妻を亡くして寂しい日々を過ごしているが、私にとって、とても楽しい「仕事人生」だった。妻は声優の武藤礼子である。

私大合格者大幅減

平成24年度大学合格状況

毎年話題になる公立高校の東大合格者ランキングは順位がめまぐるしく変わり、土浦一高も、昨年より7名減の22名で全国7位でした。毎年トップの岡崎高も10名減の27名で5位に落ち、浦和高が10名増の40名でトップに躍り出ました。筑波大も11名減で竹園高に首位の座を明け渡したようです。

私大では、早稲田大の33名減、東京理大の25名減、明治大の24名減など全体で125名(うち新卒61名)減らしています。長引く不況で国公立志向が強まったのであろう。土浦一高の進学指導室の話では、例年国公立大と掛け持ちで受験し合格して難関私立大学の合格者数を押し上げていたのが、掛け持ちを止めて国公立に一本化した生徒が多かったそうです。

土浦一高は、運動面でも、23年度は、走り幅跳び、100m自由形、200m自由形で県大会で優勝して、国体やインターハイでも活躍し、文

武両道の校是を実践しています。進修同窓会が引率先生の旅費を補助して実施している米国研修は、3年目の今年も、一、二年生37名が競争率1.6倍の中で参加し、この3月、10日間の研修を行ってきました。訪問先はワシントンDC、ボストン、ニューヨークの大学、研究所などで、通訳なしで説明を聞いた、質問をしたりしたそうです。将来は、マサチューセッツ工科大学やハーバード大学進学者が出てくるかもしれません。

(東進会会長 大野 金一)

入試年度	平成24年		平成23年		平成22年		平成21年		平成20年	
	合計	新卒	合計	新卒	合計	新卒	合計	新卒	合計	新卒
北海道大	9	5	7	2	6	1	3	1	4	3
東北大	20	15	19	10	15	10	27	20	21	15
茨城大	7	6	12	10	12	8	7	7	9	7
筑波大	33	23	44	30	42	35	38	30	49	37
千葉大	12	8	10	5	9	5	12	8	7	7
お茶女大	2	2	5	3	5	4	8	6	5	5
東京大	22	13	29	17	24	14	16	10	26	15
東京外大	3	2	4	1	5	4	1	1	3	2
東工大	8	6	9	3	5	4	13	5	9	4
一橋大	7	2	10	3	11	6	11	3	3	1
横浜国大	5	2	1	0	6	1	4	3	4	3
京都大	6		3	2	4	3	5	3	7	7
大阪大	6	3	3	2	2	0	0	0	2	1
名古屋大	3	2	4	1	2	0	1	1	1	1
九州大	3	1	1	1	1	1	1	1	0	0
その他	20	17	35	16	24	5	23	9	29	18
国立大計	167	107	196	106	173	101	170	108	179	126
公立大計	10	8	7	5	12	7	6	3	11	7
国公立計	177	115	203	111	185	108	176	111	190	133
国公医学	14	7	20	11	9	1	16	4	12	7
防衛医科	2		1				1			
その他	3	2	3	3	3	2	2	1	4	2
大学校計	5	2	4	3	3	2	3	1	4	2
入試年度	平成24年		平成23年		平成22年		平成21年		平成20年	
	合計	新卒	合計	新卒	合計	新卒	合計	新卒	合計	新卒
青山学大	20	10	20	9	24	15	8	7	20	14
学習院大	16	8	13	6	12	7	9	4	12	6
慶応大	50	21	56	29	52	23	58	27	52	22
国際基督	7	3	5	2	8	8	7	5	3	3
上智大	20	8	22	11	22	10	21	14	17	11
中央大	26	11	42	17	45	14	57	18	27	13
津田塾大	2	2	5	2	6	3	8	8	9	5
東京女大	8	4	4	2	12	5	2	2	11	6
東京理大	62	30	87	36	89	45	107	45	111	62
日本女大	20	12	9	9	15	10	17	10	18	13
法政大	28	12	40	24	33	17	26	14	18	10
明治大	68	29	92	48	79	38	89	41	65	27
立教大	57	34	41	14	54	31	58	32	42	23
早稲田大	70	20	103	44	105	50	109	59	87	45
その他	145	60	186	72	138	73	138	61	135	73
私立大計	599	264	725	325	694	349	714	347	627	333
総計	781	381	932	439	882	459	893	459	821	468

霞ヶ浦と筑波山

季節のうた

春がすみ霞の浦を行く舟の

よそにも見えぬ人を恋ひつ

藤原定家

桃浦に古船待てり乗るべきか

いかに鹿嶋にことぶれも無し

与謝野晶子

霞みながら 春雨ふるや 湖の上

正岡子規

わかさぎに ほのめく梅の 匂いかな

久保田万太郎

おくて田の稲刈るころゆたされば

筑波の山のむらさきに見ゆ

長塚節

赤蜻蛉 筑波に雲も なかりけり

正岡子規

行く春や 紫さむる 筑波山

与謝蕪村

春立つや 見古したれど 筑波山

小林一茶

(編集子 撰)

連載第13回

半了のささやき

◇デジャヴュ◇

高山寺 半了(昭和41年卒)

皆さんは一年前、平成23年3月11日、M9の大地震・大津波、そして福島原発のレベル7の未曾有の事故が重なった、東日本大震災の悲惨な映像を見て、何を思い出したか？あれ、何時か何処かで見た様なとは思いませんか？例えば関東大震災や、梅ちゃん先生の終戦直後の焼け野原の東京とか、原爆投下後の広島とか・・・

そこで今回のお題は「デジャヴュ」。聞きなれない言葉かもしれませんが、浜矩子氏はギリシャ危機の著作の中でこう言う。「今や世界の共通表現になっていますが、もともとはフランス語。『デジャ・ deja』は『既に』『ヴュ』は『見られた』の意で、未知の体験であるはずなのに、既知感がある。この感覚には、そこはかとない薄気味悪さが伴う。」昨今、薄気味悪さを伴った「デジャヴュ」ではと感ずる事が多くなっている。

デジャヴュ①「復興庁」

東日本大震災から11カ月後やつと今年2月に復興庁が発足。そう言えば、関東大震災の直後、時の内相・後藤新平は東京大改造計画を唱え、「僅か1カ月弱で帝都復興院を立ち上げ自ら総裁になった。『計画が一日遅ければ、実行は百日遅れる』との焦り。そして『後世の子孫に再び同一の惨禍に遭

遇させる危険』を防ごうという思いがあった。(平成24年2月9日、日経・春秋欄)これはテレビでもドラマ化されたのでご覧になった方は多かったと思います。

デジャヴュ②「福島原発メルtdown」

一年が経ち福島原発近郊の人達が故郷に戻れるのは、チェルノブイリ同様に、30年とも百年ともやつと言われ始めました。思えば、まだ我々が放射能被害の脅威を知らなかった時代、広島原爆投下直後から必死に肉親を捜し介抱したり、街の復興に汗した人達その被爆量たるや想像に絶します。それが後世多くの白血病や放射能障害を起こしたのも、今になって初めて納得。

デジャヴュ③「政治のレベル7状態」

後藤新平の壮大な構想は財政不足や内閣総辞職で頓挫。しかし都内には昭和通り等の主要幹線道路、避難場所となる隅田公園等が今も残る。しかるに消費税増税にひた走る野田内閣は何を残すのだろうか。その昔江戸城の一室、赤字財政に悩む泥鰌大老は、省益拡大再優先の鯨勝勘定奉行に「我々にお任せを」と言われ消費税増税に血道を上げる。一方赤坂の料亭の一室では「班目代官様、審査よしなに・・・まうもう一杯・・・」

「ウフフ・・・東電屋、お主も悪よのう。」

え、これって・・・そうなんですよ、江戸も平成も同じなんですよ。唯一の違いは、江戸時代には、暴れん坊將軍や黄門様が庶民の為にこういう悪い奴を懲らしめた。が平成の今、ついに水戸黄門も放送終了。誰も庶民の為にご印籠を出す人はいません。

さて、皆さんどうしますか？「何にも考えていない。その日の自分の事ばかりで一杯。未来や他人の事は考えない」御尤も。よく分かりますよ。しかしそれは公務員天国ギリシヤ人によく言われていた事。その結果がどうなったかご存知ですよ。しからば暗中模索中の悩める御仁はどうですか？平成版「船中八策」で人気急上昇中の橋下徹大阪市長に期待しますか？前々回の衆院選では多くの「小泉チルドレン」が、前回は一転、「小沢ガールズ」たちが議員バツジをつけた。次は「維新(橋本)ボーイズ」とでもなるのだろうか。

そこで今回のささやき「歴史は時代の装いをして繰り返す。今こそ未来のために過去に学ぶ姿勢が重要。今の様な状況にした責任は我々一人一人にもある。民主主義以上の良い政治形態は今の所ないと信じて、無力感は暫し封印して、自分の責任と判断で本物の政治家と政治体制を選ぼう。」そうは言っても本物の政治家が居るのか？鋭いね！それが問題なんですよね。東大の和田昭允名誉教授は語る。一代の皮肉屋バーナード・ショアの痛烈なアイロニー「歴史から学べることは『われわれが歴史から何も学んでいない』と言うことだけだ」には実感があると。それは同感。だが諦めからは何も生まれません。先輩、ご同輩、若い人を信じて仕事も政治も、もう未来を担う若者に任せてみませんか。明治維新も敗戦後もそうであった様に。今回はちと話がお堅く、思わず肩にも筆にも力が入りすぎました。反省(笑)。

編集後記

東日本大震災のあと、地震被害の想定見直しが相次いで発表されている。

首都直下型の東京湾北部地震は、震源が従来の想定よりも10kmほど浅くなったため、最大震度が6強から7になった。気象庁の震度階級は10段階で、7が最大。過去震度7を記録した地震は、阪神淡路・新潟中越そして昨年の東日本の3回だけだ。

東海、東南海、南海地震が同時発生する南海トラフ巨大地震の最大震度と津波の高さも発表された。震度7の地域は10県153市町村、20mを超える津波は23市町村に及ぶ。名指しを受けた地域の住民や自治体の困惑も大きいだろう。

東京湾北部を震源とする地震の被害想定も大きく変えられて発表された。

自助、共助、公助という言葉をよく耳にする。自分の命、家族そして財産を守るには、まず自分自身。そのうえで隣近所の助け合いも大事だ。過去の地震体験が、証明している。来たるべき、いやきつと襲ってくる大地震に、一人ひとりが、そして地域で十分に備えておこう。過去の記憶と記録、古地図の確認、地名の由来、地盤の高低と強弱、海岸線や河川までの距離、道路幅員、建物の粗密と街区構造、地域の防災への取り組み姿勢、職場と自宅と距離、非常持ち出し、耐震補強、家具類の転倒・落下・移動防止、家族の取り決め・・・。考えること、することは、いくらでもある。(初)

平成24年度 総会・懇親会のお知らせ

|と き| 平成24年6月10日(日曜日)

11:00 受付開始
12:00 母校弦楽部による演奏
12:20 応援指導部による演舞
12:40 総会
13:10 講演
13:40 懇親会

|ところ| 学士会館

千代田区神田錦町3-28 03(3292)5936

学士会館へのアクセス

都営地下鉄三田線・新宿線「神保町駅」下車A9出口1分
東京メトロ半蔵門線「神保町駅」下車A9出口1分
東京メトロ東西線「竹橋駅」下車3a出口5分
JR「東京駅」下車 北口からタクシーで10分

|会 費| 東進会年会費 3,000円 【同封の振込用紙をご利用ください】
懇親会費 6,000円
ただし、現役の学生は懇親会費1,000円(年会費は不要です)

|当番幹事| 伊東 明彦(平成5年卒)
五十嵐 朝青(平成6年卒)
白鳥 玲子(平成6年卒)

|講 演| 講演者 高野 忠さん(昭和38年卒)
工学博士
日本大学理工学部電子情報工学科 教授
JAXA宇宙科学研究所 名誉教授

演 題 「私の宇宙研究開発」
小惑星探査機はやぶさ、宇宙太陽光発電、宇宙旅行への茨城空港の利用、地震予知等に関してご講演いただく予定です。